

5月13日（月）

「いのちと人権を考える月間」

校長 杉浦 芳則

おはようございます。

昨日（5月12日）は、本郷小学校で行われた「わんぱく冒険広場（新一年生を迎える会）」に多くの先生方と参加しました。みんなが、誰とでも楽しく過ごしている姿を見て、とても嬉しく思いました。人と仲良くできるということは、他人を大事にできるということです。とても大切なことなので、その気持ちをいつまでも忘れないでください。

さて、5月と12月は、文京区が定めた「いのちと人権を考える月間」となっています。今日は、これを機に「いのち」と「人権」について考えてみましょう。

人は、誰もがかけがえのないただ一人の存在です。そして、同じように自分の周りにいる人たちも、一人一人がかけがえのない存在なのです。だから「自分を大切にすること」、「他の人も大切にすること」という心を、決して忘れてはいけません。それが、人間を尊重することだと思えます。

この「人間尊重」のもとにあるのは、「生命の尊重」です。生命は、どんなものにも代えることができません。それだけ生きているということは、本当に素晴らしいことなのです。私たちは、自分ひとりで生きているのではなく、様々な形で支えられて生きています。このことをしっかりと受け止め、生命の重さを心に刻んでください。

そしてもう一つ、忘れてはならないことは「人権尊重」です。人が人として生きていく権利は、何よりも大切なものです。ですから、人の心や体を傷つけるような言動、いじめ、嫌がらせなどは、決して許されることではないのです。人間として守らなければならないことは、きちんと守る。それが、お互いを尊重することの基本になるということを、忘れないでください。